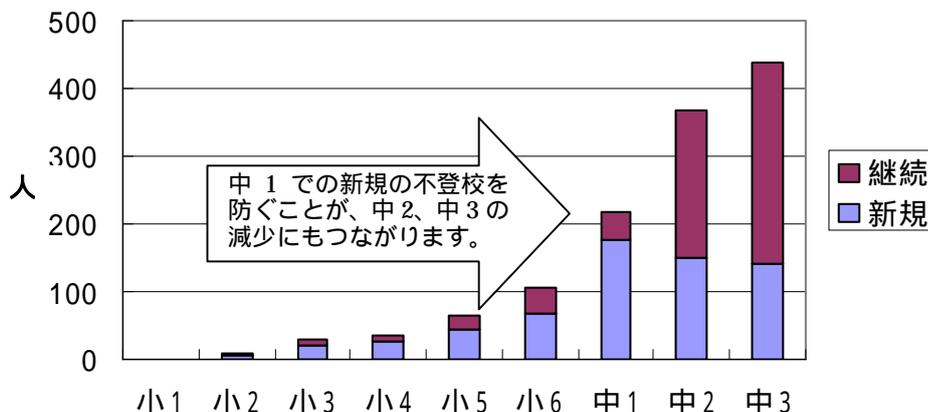


不登校対策：小中で行う中 1 ギャップへの取り組み

平成 19 年度の問題行動等調査の結果では、「中 1 ギャップ」への取り組みの成果が現れてきました。

「中 1 ギャップ」の取り組みは、中学校だけではなく、小学校・中学校が連携して行うことが必要です。

H19 不登校学年別内訳



小6 中 1 不登校児童生徒数

年度	小6	中1	増加比率
12-13	83	260	3.13
13-14	92	272	2.96
14-15	84	260	3.10
15-16	77	219	2.84
16-17	60	249	4.15
17-18	55	260	4.73
18-19	56	218	3.89

「自立」・「耐性」・「適応」が鍵

- 小学校で取り組みたいこと -

不登校児童の共通の課題は、身辺自立の未熟さ、耐性の脆弱さ、コミュニケーション能力の不足などがあり、社会的なスキルの未熟さも目立ちます。

小学校では、これらの発達課題をクリアさせるために、「自立」「耐性」「適応」について一貫して指導の充実に努めることが大切です。

【身辺自立を促す】

まずは基本的な生活習慣で生活のリズム化を図る
 整理整頓・後片付けは身辺自立の大事な証
 予定に合わせて自分なりに準備・行動する

【耐性を鍛え、発達課題にチャレンジ】

好き嫌いの差を少しずつ縮める工夫をする
 今やるべきことに一歩踏み出す手助けをする
 自分で決めて少し頑張った良さをあぶり出す

【人とつながる適応力】

オンリーワンの良さを自分の自信につなげる
 違った人と交わることで自分の良さを活かす
 人の話を聞き自分なりの言葉にして伝える

不適応や困難な状況に直面した児童の立ち直りには、背中をぼんと後押ししてくれる人の存在が欠かせません。個別の「診断仮説構造図」を作成し、「居場所づくり」と「絆づくり」をセットにして取り組んでみませんか。

(奥州教育事務所在学青少年指導員 高橋清融)

中 1 ギャップへの取り組み

中学校で取り組みたいこと一

学校からの情報を聞く態勢作り
 (気をつける点ばかりでなく、うまくいった方法も聞く)
 小学校からの情報を活かす体制づくり
 (1学年団にとどまらない情報の共有と連携の体制)
 担任一人で抱え込ませない、教育相談・生徒指導部のチームとしての働き

そのチームは情報共有・現状評価・役割分担のための定期的な会議を持つこと

早い段階で、生徒だけでなく親に向けても勉強の仕方や部活への取り組み方についての丁寧なガイダンス

各学校に合わせた、中 1 「ギャップ」を埋めるための「スモールステップ」の工夫

(スクールカウンセラー 山口 浩)

「総合教育センターHP - 教育相談担当 これまでの研究」の中に、中学校 1 年生の個票例が掲載されています。小学校中学校の引き継ぎ資料として効果的な内容となっています。

http://www1.iwate-ed.jp/tantou/soudan/kenkyu/tyu1_soukitaou.pdf

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。
 岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>